

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダについての熟考

神聖な助言

マイケル・エマニュエル

グルマーイの教えは私の人生の基礎を形作り、過去 38 年間私を支えてくれた宝です。私の人生の中で特に息づいている一つの教えは、1990 年代半ばに、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムへの思い出深い訪問の間に受け取りました。

私は、シャクティ・マンダップと呼ばれるアーシュラムの敷地内の屋外ホールに座って、グルマーイがサツァングに現れるのを今か今かと待っていました。その時、私はマインドの中を駆け巡っている対話——自己不信に満ちた対話——に気づいていました。私の思いはこんなものでした——私は、シッダ・ヨーガの良い生徒ではない、私はグルの恩恵に値しない、私は十分に熟考していない。これは自分のエゴがしゃべっているのだと自分に言い聞かせてこれらの思いを払いのけようとしたのですが、それらはいつまでも居続けていました。私は、自分のこのジレンマを取り上げたバーバの教えを思い出しました。バーバは、面倒な考えが起こるときは、自分の心にそれらを書き留めるよりも、それらを手放して、前に進み続けるよう勧めました。しかし、あたかもそれらの自分についてのネガティブな言葉を、消えないインクで自分の心に書いてしまったかのように思えました。

この内側での対話の最中に、グルマーイはマンダップに入って来ました。グルマーイが話し始めると、私は彼女の言葉に注意を向けましたが、私のマインドはまだ揺れていると感じ取れました。ある時点で、グルマーイが視線を移し、私をじかに見ていることに、私は気づきました。彼女の両目は穏やかな光線のように私に向けられていました。彼女が次のように述べた時、講話の主題からそれたように思われました——「心配することはありません——あなたは神の家族の一員です」。そして、彼女は講話の主題を再開しました。

私のマインドは静まり、私を悩ませていた感情は終止しました。講話の最中の、この短くも心に強く訴える一言に、他の誰かが気づいたのかどうかは分かりませんでした。私のためだけに彼女は語ったと考えたのは、私だけだったのでしょうか。それはどうでもいいことでした。グルマーイの言葉は私に向けられたものだと、疑いなく分かっていました。「あなたは神の家族の一員です」。彼女の言葉を聞いて、私は、彼女の仲間に、そして、このサンガムの仲間に完全に加わりました。私の心から重荷は取り除かれました。私の悩みを抱えたマインドはグルマーイの慈しみと愛で和らぎました。

サツァングが終了した後、私は、マンドアップにいるシッダ・ヨーギや探究者たちの集まりを見回して思いました——私は一人ではない、個人的に互いを知るわけではないが、この人たちは私の幸せを祈っているのだ、ちょうど私が彼らのサーダナーでの幸せを祈っているように。あのたった一つの簡単な言葉、「心配することはありません——あなたは神の家族の一員です」によって、なぜ彼女がいつも講話を、「大いなる尊敬と大いなる愛を込めて、皆さまを心より歓迎いたします」と言って始めるのかについて、グルマーイはより深い理解を私にもたらしめました。そして、私は彼女の恩恵に値すると分かったのです。

その後何年もの間、この、自分には価値があるという言葉をも自分の心に書き込もうと私は決意しました。人生は私たちの決意を試す手段を持っています。ある日職場で、上司が私を彼のオフィスに呼び、クライアントとの重要な会議で私が彼の代わりを務めなければならないと言いました。準備に 10 分しかありませんでした。彼はさらに言いました。「ところで、このクライアントたちは手ごわい交渉人たちだ。あなたの足元をすくうかもしれないよ」。そう言って、彼はオフィスを出て行きました。

自分には価値がないという感情が真っ先に飛び出て来ました。自分の交渉力を疑い、取引をまとめるための十分な経験が自分にあるのかどうかを疑問に思いました。私は深呼吸し、オー

ム・ナマー・シヴァーヤのマントラを繰り返しました。ライオンの巣穴に入ることについての私の心配は解消し始めました。それらのクライアントたちの一番良いところを見ようと決意しました。会議室に入ると、私は温かい握手と笑顔で迎えられました。神の家族は、私の人生の中のあらゆる人を含むまで広がっているという気づきを、会議の間ずっと、私は保っていました。1時間のうちに、私たちは互いに利益をもたらす合意に達しました。会議の終わりに彼らと握手をした時、私に自信と強さをもたらしたこの教えをくれたグルマーイに内側で感謝し、自分の価値を認めるという感覚を再確認しました。

シャクティ・マンダップでのあの時のことを思い出すたびに、私はグルと弟子の間の永遠の結び付きを思い起こします。私の限界を超えて見てくれる、そして、私を神の家族の一員として迎えてくれる私のグルに、私は感謝しています。

